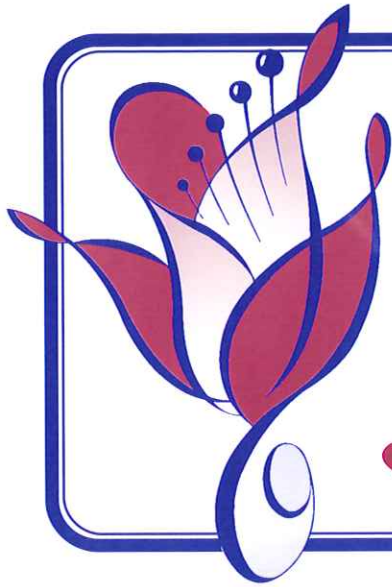


自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)



# ひびきあい HibikiAi

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548

## 聖ヨハネ学園の理事として思うこと



聖ヨハネ学園  
理事 田 忠 邦

社会福祉法人聖ヨハネ学園の理事に就任して3年近くになります。個人には幼稚園、こども園を運営する学校法人、通信制、単位制の高校や日本語学校、専門学校を運営する学校法人、保育園、特別養護老人ホームや小規模デイサービス施設を運営する社会福祉法人、そして青少年を対象にしてキャンプやハイキングなどの野外活動、水泳、サッカー、バスケットボールなどのスポーツ指導を主な事業とする公益財団法人の四つの法人を抱える団体の職員として働いています。聖ヨハネ学園の事業活動とは共通項も多く、とても参考になっています。しかし聖ヨハネ学園は、社

会福祉法人のもとで、児童から高齢、障がい分野と多岐に渡る社会福祉事業を独自に、また行政との協働で展開していることは、地域のコミュニケーションに大きく貢献しているという点で、とても誇り得るべき事だと思えます。また、学園の理念「いのちががやくために」は、学園の働きを端的に表現する公的機関には真似のできない精神的バックボーンとして素晴らしいものだと感じています。

今後の聖ヨハネ学園に期待する事は、事業規模を拡大するのにもさる事ながら、持てる資産の有効活用をしていただきたいと願っています。各施設が、有機的に結び付き相乗効果を生み出す工夫をしていただきたいものです。例えば、下田部保育園の園児は現在ミス・ブル記念ホームを訪問して、敬老の日のお祝いの花束のプレゼントをしているのですが、さらに訪問の回数を増やして歌やお遊戯を披露

したり、逆にミス・ブルの利用者さんが、園児に語り部としてお話をしたり、絵本の読み聞かせをしたりするのはいかがでしょうか。さらには、そこに見学を希望する保護者を招待するなど、もっと地域に開かれた施設作りを目指していただきたいと思います。それぞれの施設で活動するボランティアが、横断的に学園の他の施設でも活動、交流ができるシステム構築ができないものかと、考えています。ボランティアは必ずしも高校生や大学生のような若い世代でなくても、定年退職を迎えた元気なシニアをボランティアとして募集するのも一つのアイデアではないでしょうか。そして、「ヨハネ学園に行けば何か楽しい事をやっているよ。」と、人が人を呼んでくる流れができれば楽しいだろうなと勝手に想像しています。以上の事が絵空事で終わるのではなく、実現に向け一歩でも近づけるように理事の一人として微力ながらお役に立てればと思っています。

▼ご利用者と職員の間  
「笑顔にまつわるエピソード」  
を集めてみました。

## 聖ヨハネ学園

児童養護施設に勤めて4年目となります。子どもたちとの日々の生活では、嬉しい変化も見え、楽しい毎日です。

子どもたちと関わり、向き合う中では、気持ちを通じ合わず、落ち込むこともあります。しかし、生活の中で見えてくる小さな成長やその時に見える子どもたちの笑顔にふれ、子どもたちの成長を実感できることが、私の原動力となっています。

子どもたちのことを考えていると、様々な発表の場で見えた笑顔が思い返されました。発表の場は年に数回あり、幼稚園・小学校だけではなく、学園行事での劇や歌の発表があります。生活面が発表の場になることもあります。人前に立つということは、私た

ち大人でも緊張しますが、子どもたちを見てみると、強くたくましいないつも感じします。私たち職員との関わりや、幼稚園・小学校の先生方の支援があり、子どもたちは粘り強く大きく成長しているのだと感じます。

私が担当していた3歳の女の子のことです。人見知りがあり、環境の変化が苦手な子でした。私と一緒に幼稚園の運動会の応援へ行ったとき、未就園児競技のかけっこに参加することになり、周りの子



どもよりも緊張している様子が伺えました。待ち時間に、「○○ちゃん大丈夫？」と声を掛けると「林ネエ、一緒に手つないで走ろう」と不安そうでしたが、順番までに時間があつたので勇気づける言葉をかけ続けました。かけっこの直前に、「○○ちゃんどうする？林ネエと手を繋いで走る？それとも横で一緒に走ってみる？」と提案したところ、少し考えて「一緒に走る。」と、いつもの自信のない様子からは想像もつかない答えで、とても驚いたことを覚えています。スタートすると、笑顔いっぱい、最後まで走り切っていました。ゴールした後の満足そうな笑顔が印象的で、私も嬉しくて、女の子を抱き、一緒に喜びました。『嬉しい』という感情があふれ出したあの笑顔は忘れません。

これからも子どもたちの成長を見守り、笑顔の日々を送れるように関わり続けていきたいです。  
(林 志保)

## 下田部保育園

下田部保育園で保育士として働き、4年目になりました。これまでの3年間は、1歳児、2歳児、3歳児と、持ち上がりで同じ子どもたちと過ごしてきました。3年間の日々の中で言葉の習得、衣服の着脱、おむつからパンツへの移行、スプーンからお箸への移行、自分の身の回りのことができようになる、お友だちを思いやる気持ちを持つことなど、たくさん成長を肌で感じてきました。そんな中でこんな出来事がありました。

1歳児、2歳児の間に、どんどんお喋りが上手になる一方、子ども同士のトラブルの中で気持ちを上手く言葉にできず、手を出してしまう子がいきました。「嫌な時はやめて言うんだよ。」「叩いたら、お友だちが痛いよ。」と伝えようと、気まずい顔をしていたので、きつと心の中ではダメなことだと分かっているも衝

動的に動いてしまうのだと感  
じました。

そこで、職員間で話し合い  
をし、その子の個性や特徴に  
ついて共通理解を持ったうえ  
で、手が出てしまう状況を未  
然に防ぐこと、その子の気持  
ちに寄り添うこと、その子の  
気持ちを代弁して伝えること、  
言葉で伝えられた時には思い  
切り褒めるということを意識  
してみました。時間はかかり  
ましたが、そういった関わり  
をしていく中で自ら「やめて」  
とすることができ、手を出し  
てしまった時には「ごめんね。」  
とすることもできるようにな  
りました。言葉で気持ちを伝  
えられるようになることで、  
友だちとの遊びも上手く発展  
しその子自身も笑顔になり、  
それを見ている私自身も気が  
付くと笑顔になっていました。



保育の中で子どもの成長を  
そばで見守り、保護者と共有  
し、喜び合うことができた時  
に保育士としてのやりがい  
感じます。これからも子ども  
たちと共に成長を喜び合っ  
ていきたいです。(笠木美里)

## ミス・ブール 記念ホーム

私はミス・ブール記念ホー  
ムで介護職員として働き始め  
て4年目になります。

ご利用者が施設へ入所され  
る理由はさまざまですが、ど  
のご利用者も入所されてすぐ  
には施設に慣れず、落ち着き  
がなかったり夜間眠れなかつ  
たりということがあります。

あるご利用者は、入所した  
初日はとても落ち着いておら  
れましたが、日が経つにつれ  
大きな声で「帰りたい。どう  
したらいいの。」と強い不安  
感を訴えられました。普段は  
車椅子を使用している方でし  
たが、おひとり急いで立ち上  
がって机を伝って歩かれるな



ど目が離せない危険な状態  
になりました。ご家族からは  
「私が家で見ることができたら  
いいのですが、本当に申し訳  
ない。」と、心配をかけてし  
まうこともありました。

少しでも施設での生活に慣  
れていたいただくため、ご本人が  
家で何をして過ごされ、どん  
なことを好まれていたのかを  
ご家族に伺い、安心できる環  
境作りに努めました。そんな  
関わりによつてか、少しずつ  
職員の顔を覚えていただけ、  
少しずつご自身のお話もして  
くださるようになりました。

今では職員が出勤すると、  
「今日も来てくれたんやね。」  
と笑顔で迎えてくれます。職  
員が帰る準備をしていると  
「寂しいから帰らん」とい  
てとおっしゃり、明日も来るこ  
とを伝えると「明日も待つて  
います。」と笑顔で見送つて  
いただけることもあります。  
このように声をかけていた  
けることが嬉しく、こんな瞬  
間に私たち職員がご利用者に  
笑顔をいただいているのだと  
感じています。

ご利用者が施設の生活に慣  
れていただけのご家族  
の安心にも繋がり、先日には  
ご家族から「この施設に入所  
することができてよかったです。  
家にいる時は喧嘩ばかり  
していたのだけど、今は楽し  
く母と話すことができます。」  
と笑顔で話していただけまし  
た。

介護の仕事は、ご利用者を  
含めた家族支援であることを  
日々感じています。最初は、  
ご利用者、ご家族ともに慣れ  
ない環境で過ごすことに不安  
を感じられると思います。し

かし、ここに来てよかったと感じていただき、ご利用者とご家族の笑顔をたくさん増やしていただけるような支援者として、これからも頑張っていきたいと思います。(小田恵美)

## ゆう・あい センター



障がい者福祉

センター(以後ゆ

う・あいセンター)は、どなたでも入っていただける開かれたセンターです。1階には本を借りられるスペースがあったり、喫茶コーナーもあるので、通りすがりにちよつと休憩という一般の方も利用されます。

その一角に事務所があるの  
で、常にいろいろな方々が  
「あの一」と事務所の小窓を  
覗かれます。「センターに咲  
いている花がいつも綺麗。」  
と、ぶらつと寄つてくださる  
方、場所探しの方。「生涯学  
習センターってここではない  
の?」と、「障がい」と「生

涯」間違いのケースもあったり、なるほど、そういう間違いもあるのか、という事もあります。

そんないろいろな方が来られるセンターですので、いろいろな出会いもあります。そんな出会いから生まれるのが笑顔だと常に思つて業務についております。

以前、ゆう・あいセンターで実施した福祉講演会の中で、講師がこんな事をお話しくさしました。

「私は視覚障がい者なので、電車に乗っている時、道を歩いている時に、声をかけていただく事があります。親切な方もいれば、中にはちよつとびつくりする事をされる方もいます。

ある時、電車の中で立っていると、「こっち空いてるで。」といきなり白杖をつかまれ、ひっぱられました。私は降りるホームを決めているので、電車の立つ場所も決めているのです。

スムーズに移動するために覚えたルートがありますが、

席が空いているからと親切に言つてくださる方の気持ちに對してありがたいという気持ちがあるのです、決して怒りはしません。

腹の中では、降りる場所わからんようになるわ、と思つたりしますが、決して相手にどなつたりはしなないので。なぜなら、声をかけてくださった方にとつて、私が初めての障がい者かもしれないと思うからです。せつかく声をかけてくださったのに、私が「余計なお世話だ。ほつといてくれ。」と言つてしまうと、その方は、それ以降、障がい者や、困っている人に二度と声はかけないだろうと思うからです。初めて声をかけた障がい者に逆に怒られるなんて決して気持ちのいいものではないですよ。」

さらつとお話されたのです

が、自分の事より、自分以外の方への心配りを常にもつておられる姿勢に感銘をうけたのです。自分には思いもつかない事だったので、ちよつと驚いたのですが、この事が出

会いの上に笑顔が生まれるという考えの原点となった出来事でした。

ゆう・あいセンターは、人と人とのつながりを、とても大切にしています。

「笑顔」とは、ほほえんでいる顔を言い、ほほえみとは、声をたてずにニヤリと笑うこと、敵意を持たない事を表現するために使われるとあります。

窓口へ来られた方がどんな事情で来られていようとも、まずは笑顔でよく来てくださいました、という気持ちを持って、笑顔でお迎えしたいと思います。そう心がけようと思

います。(松田恵美)

## うの花療育園

栄養士

・バイキング給食の日は、好きなメニューをたくさんおかわりできるので、普段あまり給食に興味の無いお子さんでも食べられるきっかけとなり、

こちらまで嬉しくなります。

### 調理員

・ 厨房内がお子さんから見える為、網戸に鼻を押しつけてこちらをのぞいている姿に笑顔になります。

### 事務員

・ お子さんが先生のお手伝いとして、少しかしこまった様子で先生と一緒に事務室に入ってくるのを見ると、思わずにっこりしてしまいます。

### 看護師

・ 緊張していたお子さんが、少量の薬が飲めたことを褒め、クラス担任にも褒められ、その後は、残りの薬を飲むことができました。他の先生からも褒められると、お子さんは少し誇らしそうな笑顔を見せてくれ、私もとても嬉しい一瞬でした。

### 臨床心理士

・ 発達検査などの報告会で、保護者にお子さんができるようになったこと、上手になったこと、できるようになるまでの過程や様子について話し、お子さんの成長を保護者と一緒に感じた時です。

### 保育士

・ 片付けの声かけに乗っていた三輪車を倉庫まで持って来てくれ、「ありがとう。」と声をかけると目が合った時です。  
・ ズボンや靴を職員に手伝ってもらいながらはいていたお子さんが一人で履いたり、水を触ることが苦手なお子さんが手洗いをする等、今までできなかったことが、少しでもできた時です。



・ 拒否していた設定等にお友だちが一緒という理由で参加することができたことに、お友だちパワーを羨ましく思い、嬉しさを思わず笑ってしまいました。

### 運転士

・ 「せんせい、えいごではなそうよ。」というやり取りで、お子さんの発音はともきれいですが、職員の発音は英語ではなく日本語を英語なまりで話しているだけの愉快な職員に笑ってしまいます。



私は、今年の4月で地域生活支援センター光にて2年目を迎えました。前職では高齢者施設で7年間働いていました。今までの経験も生かして、かつ携わった事がなかった障がいについて知りたい、障がいの有無に関係なく共に生きるために支え合いたいと思いい、地域生活支援センター光に入職しました。

しかし、前にいた施設とは違って、一人ひとりの障がい特性に応じた個別のケアが提供されており、当初はそれぞれの介助方法や業務を覚える事に必死で、ご利用者とのコミュニケーションをはかる余裕はありませんでした。先輩職員についていくのがやっとで心のゆとりが持てず、「いつも明るく元気に笑顔」をモットーにしていたのに、ご利用者を作り笑顔を見せていたように思います。

それでも、業務に慣れ、ご利用者へ寄り添った関わりを日々積み重ねていくと、会話も少しずつ増えていきました。そして何より私自身にも少しずつ心のゆとりを持ち始めることができました。

しかし、食事の介助時などは、ご利用者が食べやすいペースなのか、飲み込みやすい介助ができているかなど、介助をこなすことで精一杯でまだまだ余裕がありませんでした。

ところが、ある日の夕食時、ご利用者や先輩職員の笑い声

が不意に聞こえてきました。その笑い声につられて、私自身も自然と笑顔になりました。見渡すと、周囲のご利用者も笑顔を見せて楽しそうに食事をされています。私はその時初めて介助だけでなく、楽しい食事の雰囲気を作ることの大切さに気付きました。まだ光で働き始めて2年しかたっていないませんが、次は私自身からご利用者と職員の間顔がこぼれる雰囲気を作っていきたいと思います。

(松宮遼祐)



## 聖ヨハネ 子どもセンター

聖ヨハネ子どもセンターコアラ教室は、2018年、開設から7年目の春を迎えました。今年度もたくさんのお子さまたちとその保護者の方たちをお迎えして新年度が始まりました。

児童発達支援事業のひとつである午前中の親子教室(グループ)では、発達にさまざま

まな課題を持つ1歳児〜3歳児のお子さまと、保護者の方が一緒に通っていただいています。教室での療育は、さまざまな遊びを通して、お子さまの興味に寄り添い、気持ちを大切にサポートしていきます。1年通っていただく中で、お子さまたちは、自分の感情をたくさん出してくださいます。初めての環境に戸惑ったり、時には思うようにいかなかったり、泣いたり、怒ったり、すねたり：そんなお子さまの一つ一

つの気持ちを大切に、共感したり、代弁したり、とことんつきあったりしながら、お子さまのペースに合わせて発達を援助していきます。そんな中で、お子さまたちの素敵な笑顔も増えていきます。お部屋のジャングルジムに登るのが怖かった3歳児のAくん、お友だちが登っているのを毎週見て、憧れていました。



## 理事長の日々

理事長 野知卓司

この原稿を書いていることもこの日はゴールデンウィークの最終日です。五月晴れの真っ青な空、木々の新緑も美しく、すがすがしい日ですが、気温は20度くらいでうすら寒さが残っています。

来週末には、5月11日・12日の2日間をかけて監事監査が予定されており、2017年度の事業報告と決算報告の準備が完

了します。2日をかけての監事監査は初めてですが、これは新社会福祉法で監事の権限と責任が規定されたことへの対応であり、監査に十分な時間をかけようとするものです。昨年4月以降、監事のうち少なくともお一人が毎月の施設長会に陪席されていますが、法人の運営状況を把握するための監事さんたちの心意気だと感謝する次第です。2017年度から新社会福祉法が完全施行となりましたので、内部統制機能の強化として、評議員・理事・監事それぞれの義

務・権限・責任が法律上規定されました。評議員会は全社会福祉法人に必置となり、議決機関として理事・監事・会計監査人の選任・解任・報酬の議決権が付与され、定時評議員会における決算の承認が義務付けられました。理事会は法人の業務執行に関する意思決定機関と位置付けられました。会計監査人は法人の規模によって設置が義務づけられており、当面当法人は該当しません。

この法律で注目する点として一つは、社会福祉法人の地域に

そんなAくんの気持ちにスタッフが毎週、毎週寄り添っている、ある日、ジャンルジム一段目に自分から足をかけてみようという気持ちになったようです。Aくんの気持ちに寄り添って、スタッフが身体を支えると、一段、登れました。

Aくんは、少し高くなった場所からそつと振り返って「できたー」という満面の笑顔をお母さまに見せられ、それを見てお母さまも「できたね！よかったね。」と嬉しさの笑顔をお子さまへ向けられます。そんなAくんとお母さまを見て、さらにまわりのスタッフも笑顔になり、まわりの笑顔に囲まれてAくんは照れながらもさらに笑顔になりました。笑顔が響き合い、心が響き合い、気持ちがつながっていきます。

コアラ教室では、そんな響き合う笑顔を大切に、今年度もたくさん笑顔に出会えるよう、コアラ教室職員一同、日々精進して参りたいと思います。(橋本暁子)

おける公益的な取り組みの明確化です。第24条の2項に「社会福祉事業及び公益事業を行うに当たって、日常生活又は社会生活上の支援を必要とするものに対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」と規定され、社会福祉事業だけでなく公益事業への積極的な関与を求めている、それを無料又は低額で実施する責務を示しています。二つ目は第7節において毎会計年度で社会福祉充実残額を算定し、プラスであれば社会福祉充実計画を作成し、所轄庁の承認を得て実施する。と規定されており、社会福祉法人は地域の住民その他の関係者の意見を取り入れて事業に取り組むことの必要性が示されています。

2017年度は2013年から開始した中期ビジョン達成活動の第1期5年の最終年度で、この5年間の検証を行い、次の5年間の目標を決めました。

「**事業展開**」地域の福祉に貢献する活動や新規事業の掘り起しを行い成果を上げている。

「**財務体制**」本部が果たす役割

をより明確にして、各施設の経費分担の根拠がオーソライズされている。

「**福利厚生**」職員の心身の健康を保ち、意欲を持って業務を行う環境が整備されている。

「**環境体制**」将来の総合整備計画の基本構想が明確となり、計画の立案が進展している。

「**職員体制**」法人が求める職員像を明確にして、採用難への対策を実施し必要な職員数を確保している。

「**情報発信**」福祉ノウハウの整理・保管・活用システムの整備して、地域社会への発信力を強化している。

「**安全体制**」自然災害への備えを万全に整えて、事業継続計画が出来ている。

この中期ビジョンの要となるのが総合整備計画であり、その基本構想策定委員会で各施設の将来像を議論し、大まかな工程表を理事会に報告しました。この基本構想の発表は2019年11月即ち法人創立130周年と決めていますので、今後建築や土木の専門家にも入っていた

だき、現実的で具体的なものに

していきますが、最も予測困難なのが児童養護施設の将来像です。2017年8月に「新しい社会的養育ビジョン」が厚労省から発表されました。

このビジョンでは児童福祉法第3条2項の家庭養育原則に基づき里親やファミリーホームを家庭養護(家庭養育)として優先していきます。2011年に「社会的養護の課題と将来像」で提示された「本体施設、グループホーム、里親でおよそ3分の1ずつとすること」に基づいて策定された都道府県の計画は2018年末までに見直すとしています。乳児院・児童養護施設は多機能化・機能転換・高機能化するとされ、全ての施設は原則として概ね10年以内を目途に、小規模化(最大6人)・地域分散化、常時2人以上の職員配置、高度のケアニーズに対応する高機能化、さらに生活単位を小規模化(最大4人)、地域や里親への包括的支援などの目標が掲げられています。今後も紆余曲折が予想されますが、この様なことを前提として将来像を構想せねばなりません。

# 痛みへの想像共感力

チャプレン 司祭 ペテロ竹林 徑一

熊本市を北から眺めるように横たわる、なだらかな立田山の山麓・黒髪に、高齢者総合生活支援センター(福)リデルライトホームがあります。その西側は、夏目漱石も教鞭を執った旧制第五高等学校、現熊本大学のキャンパスです。ホームの敷地中央に立つのが、日本聖公会九州教区の降臨教会礼拝堂、精神的バックボーンです。

ここのもう一つの宝が、2階建ての瀟洒な洋館「リデル・ライト両女史記念館」ですが、2年前の熊本地震で被害を受け、現在は休館中です。英国教会の海外宣教団体CMSの女性宣教師・英語教師として1890(明治23)年春に来日したハンナ・リデル女史は、熊本に赴任してまもなく、あまりに悲惨な現実に出会い、そのために一生を捧げることになりました。桜見物に出かけた本妙寺境内

で物乞いする多くのハンセン病患者の姿を眼にしたことから、患者の救済を志し、専門の施設「回春病院」を設立、それは全国的活動へ展開していきます。私は、明治以降の日本の社会福祉発展に、キリスト教の宣教師や関係者が発端となり、大いに寄与した一つの典型を、リデル女史に見ることができると思います。

「イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、『よろしい。清くなれ』と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。」(マルコ福音書1:41)

この聖書の話のリデルさんは読んで、当然知っていたでしょう。しかし、イエスがこう教えたから彼女が動き始めたのではなく、イエスと同じように「深く憐れんだ」ことが彼女を動かしたので。

「深く憐れむ」と訳された原語は、ギリシア語でスプランクニソマイ、「内臓を引っかき回され、引きちぎられるような痛み、苦しみを覚える。はらわたをつき動かされる」という意味です。英語ではコンパッション、沖縄の言葉で「ちむぐりさ、肝苦しい」という表現になります。他者が苦しみ、痛み、死んでいく様を、平然と見過ごせない。自分に責めを感じ、居ても立ってもいられないけど、どうもできないもどかしいという感情です。イエスはこれを豊かに持ち、愛という形で行動に移すことに優れた方でした。英国からはるばる日本へ伝道に来た時には、思いもよらなかった仕事にリデルさんを献身させたのはこの「ちむぐりさ」だったと思います。その意味で、彼女はイエスに殉じたと言えるでしょう。

聖ヨハネ学園は、リデルより



ハンナ・リデル女史

2年早く1888(明治21)年に米国聖公会より女子学習会教師として来阪したリラー・ブル女史が、翌1889年に聖ヨハネ教会婦人会を指導し、働きとして貧院(後の救児院)を設立したことが出発点です。彼女もまた、二人の幼子に出会い、ちむぐりさに動かされてイエスに殉じ、大阪で76年の生涯を終えた、働き人の一人でした。

社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548

- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
- 下田部保育園 (保育所)  
〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
- ミス・ブール記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)  
〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
- ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)  
〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
- うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)  
〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
- 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
- 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722